

「上田地域の高校の将来像について」
意見・提案

令和2年7月13日

上田地域の高校の将来像を考える協議会

目 次

1	はじめに	・・・	1
2	旧第5通学区（上田地域）の高校の現状と課題	・・・	2
	(1) 今後、予想されている更なる人口減少について		
	(2) 流入超過となっている現状について		
	(3) 各高校の特色の明確化と学びの選択肢の充実について		
	(4) 定時制教育のあり方について		
3	生徒と保護者を対象としたアンケート調査結果	・・・	3
	(1) 中学生とその保護者が望む高校		
	① 高校の課程、学科		
	② 高校選択の視点		
	③ その他（流入超過、通学時間等に関する意見）		
	(2) 高校生とその保護者が望む高校		
	① 高校選択の視点		
	② 高校に期待すること		
	③ その他（流入超過、通学時間等に関する意見）		
4	上田地域の高校の将来像（学びのあり方）について	・・・	6
	(1) 今後、予想されている更なる人口減少への対応について		
	(2) 流入超過となっている現状について		
	(3) 高校の学びの充実について		
	(4) 定時制・通信制教育のあり方について		
5	おわりに	・・・	7
	参考資料	・・・	8
	・ 設置要綱、協議会での検討経緯、委員名簿、アンケート調査（集計結果）		

「上田地域の高校の将来像について」の意見・提案

1 はじめに

現在、少子高齢化の進展に伴う人口減少や格差拡大など、地域・コミュニティは大きな転換期を迎えている。特に、団塊の世代が後期高齢者となる 2025 年には、日本の人口の 5 人に一人が「後期高齢者（75 歳以上）」となることから、社会保障経費の増加や公共施設の老朽化等に伴う維持管理・更新経費の増大により、厳しい財政状況が続くことが予想されている。

一方、国から公表された「第 5 期科学技術基本計画」の中で、我が国が目指すべき未来社会の姿として「Society 5.0」の方針が示され、AI や IOT などのテクノロジーの進化や働き方改革などにより、私たちを取り巻く社会・経済環境は加速度的に変化する中であって、人口減少を抑え、バランスの取れた人口構造を目指すための事業を構築するとともに、新しい時代にふさわしい社会の仕組みを創造する必要がある。

このような変化に対し、高校教育も大きな転換を迫られる状況にあり、従来の基礎的、基本的な知識及び技能の習得に加え、知識・技能を活用し課題を解決するために、思考力、判断力、表現力を育むことが求められ、そのための「新たな学び」の場の充実が必要とされている。長野県教育委員会（以下「県教委」という。）は、新しい時代に対応する「新たな学びの推進」と、「新たな高校づくり」を目指し、2018 年（平成 30 年）9 月に、「高校改革～夢に挑戦する学び～実施方針」（以下「実施方針」という。）を示した。

この方針に基づき、県教委から、旧通学区単位での地域の協議会を設置し、地域の将来を見据えた高校の学びのあり方などについて、地域からの意見提案が求められており、上田地域では、2019 年（令和元年）8 月に「上田地域の高校の将来像を考える協議会」を設置し、「上田地域の今後の高校教育のあり方」について協議を重ねてきた。

今般、当地域協議会での議論やアンケート調査を経て取りまとめた内容について、旧第 5 通学区（上田地域）の全ての生徒が夢に挑戦する学びを実現できること、また、保護者や地域にとって子どもの成長が実感できる場となることを願い、ここに意見・提案する。

2 旧第5通学区の高校の現状と課題

本協議会では、県教委から示された「実施方針」の中で、当地域の現状や課題、再編計画の方向を踏まえ協議・検討を行った。

(1) 今後、予想されている更なる人口減少について

2019年（平成31年）3月の旧第5通学区の中学校卒業生は1,799人であったが、今後2030年（令和12年）までに280名程度（クラス規模で7クラス分）の減少が見込まれている*。

また、2030年以降、さらに大きく減少していくことが予想されている。

【中学卒業生数の予測】

高校入学年	2019年	2025年	2030年	2034年
中学校卒業生数*	1,799人	1,631人	1,523人	1,295人
2019年に対する比率	100%	91%	85%	72%

*2028年（令和10年）までは、2019年度（令和元年度）学校基本調査による。2030（令和10年）以降は、2019年度（令和元年度）長野県人口異動調査による。

(2) 流入超過となっている現状について

この地域の高校に、旧第5通学区以外から280名程度（旧通学区内高校募集定員の20%程度）の流入があり、110名程度の流入超過となっている*。地域の中学生在が、地域で学ぶ環境整備が必要と考える。

*2019年度（平成31年度）入学者選抜の状況

【旧第5通学区の中学校卒業生の高校進学状況】（「実施方針」から引用）

内 訳	人 数	割 合
旧第5通学区の公立高校へ進学	1,172人	70%
上記以外の高校へ進学	500人	30%
・旧第6通学区の公立高校へ進学	138人	—
・旧第4通学区の公立高校へ進学	60人	—
・県内私立高校へ進学	276人	—
・その他（県外含む）	26人	—

【旧第5通学区の高校への入学状況】（「実施方針」から引用）

内 訳	人 数	割 合
旧第5通学区の中学校から入学	1,172人	80%
上記以外の中学校から入学	302人	20%
・旧第4通学区の中学校から入学	145人	—
・旧第6通学区の中学校から入学	144人	—
・その他（県外含む）	13人	—

(3) 各高校の特色の明確化と学びの選択肢の充実について

東信地区の私立高校を中心に県内私立高校へ280人程度が進学している*。今後、さらに少子化が進行する中で、公立高校・私立高校の特色を明確にし、この地域の中学生的の学びの選択肢を充実させていく必要がある。

*2019年度（平成31年度）入学者選抜の状況

(4) 定時制教育のあり方について

「多部制・単位制」である東御清翔高校には夜間部がなく、一方、上田市内に普通科と工業科の定時制が設置されている。この地区の定時制教育のあり方について検討していくことが必要である。

3 生徒と保護者を対象としたアンケート調査結果

当協議会では、旧第5通学区における今後の高校教育のあり方を検討するに当たり、上田地域内の中学3年生、高校1年生並びにその保護者を対象としたアンケート調査を実施した。

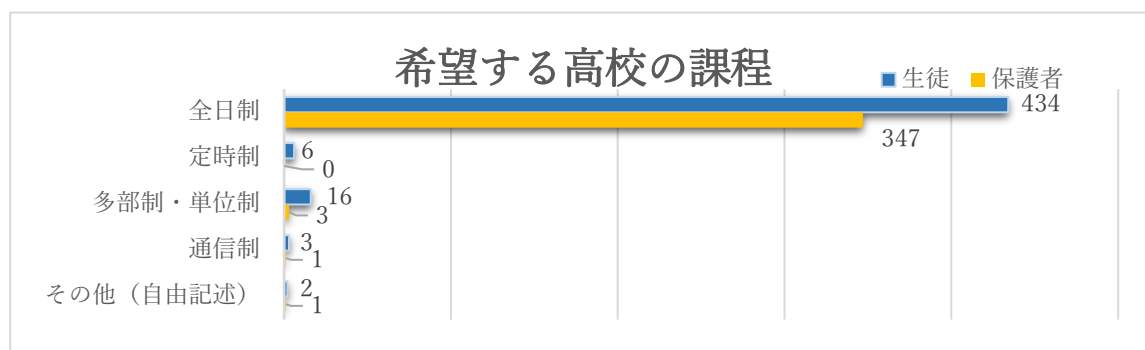
回収率などは以下のとおり、課題や要望など多くの意見が寄せられた。

	中学校			高校			全体
	生徒	保護者	計	生徒	保護者	計	
対象者数(人)	495	495	990	304	306	610	1,600
回答者数(人)	461	352	813	292	214	506	1,319
回収率(%)	93.1	71.1	82.1	96.1	69.9	83.0	82.4

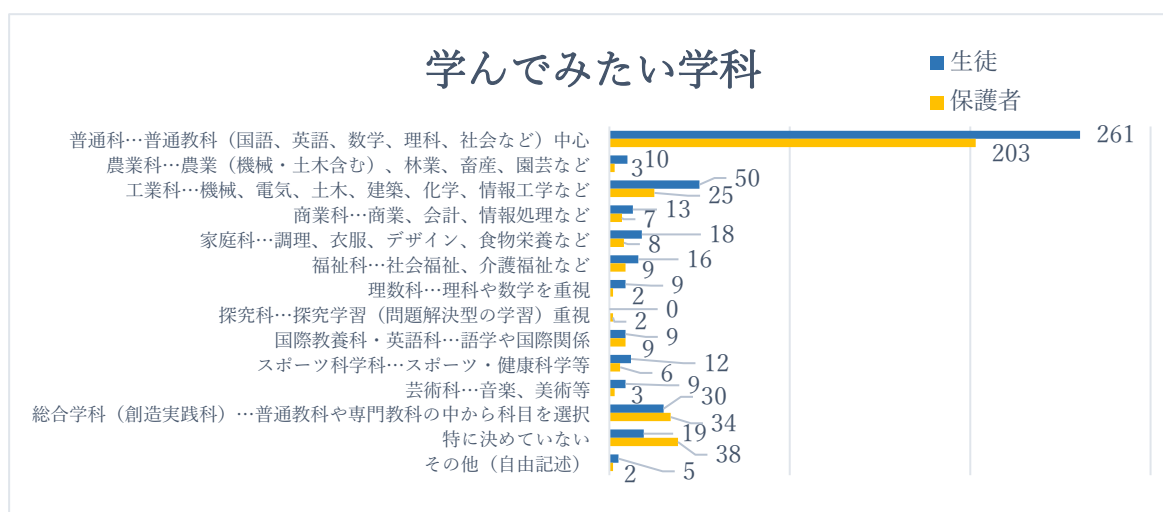
(1) 中学生とその保護者が望む高校について

①高校の課程、学科

生徒、保護者ともに「全日制」「普通科」を希望する回答が多かった。



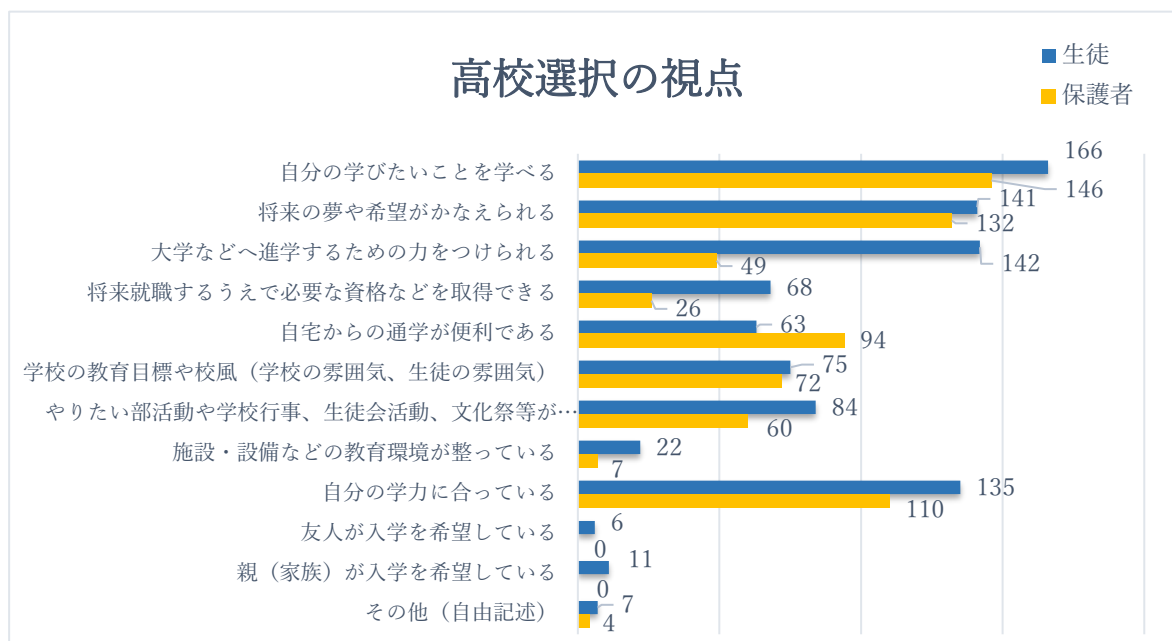
<上田地域内の中学校の生徒と保護者 【問1】>



<上田地域内の中学校の生徒と保護者 【問4】>

②高校選択の視点

生徒、保護者とも「自分の学びたいことを学べる」、「将来の夢や希望がかなえられる」という回答が上位にきている。生徒については、「大学などへ進学するための力をつけられる」、「将来就職するうえで必要な資格などを取得できる」という回答が多かった。



＜上田地域内の中学校の生徒と保護者 【問2】＞

③その他

アンケートの結果や自由記述から、当該地域の生徒たちが地元愛をもち、家庭を含めた生活環境を大切にして地元の高校へ進学することを切に願っていることがうかがえる。

なお自由記述には、次のような意見が散見された。

ア 他地域からの流入や定員に関する意見

他の通学区からの流入超過の状況にあり、地元の高校に入れず多く出てしまっているため、入学定員の増員や、地元優先の仕組みづくりなどの配慮を望む。

イ 通学時間や交通手段の改善に関する意見

高校へ通学する生徒や保護者の負担軽減に向け、通学にかかる時間はできるだけ短く、また、バスの周回ルートや費用面での無料化などを含めた検討を求める。

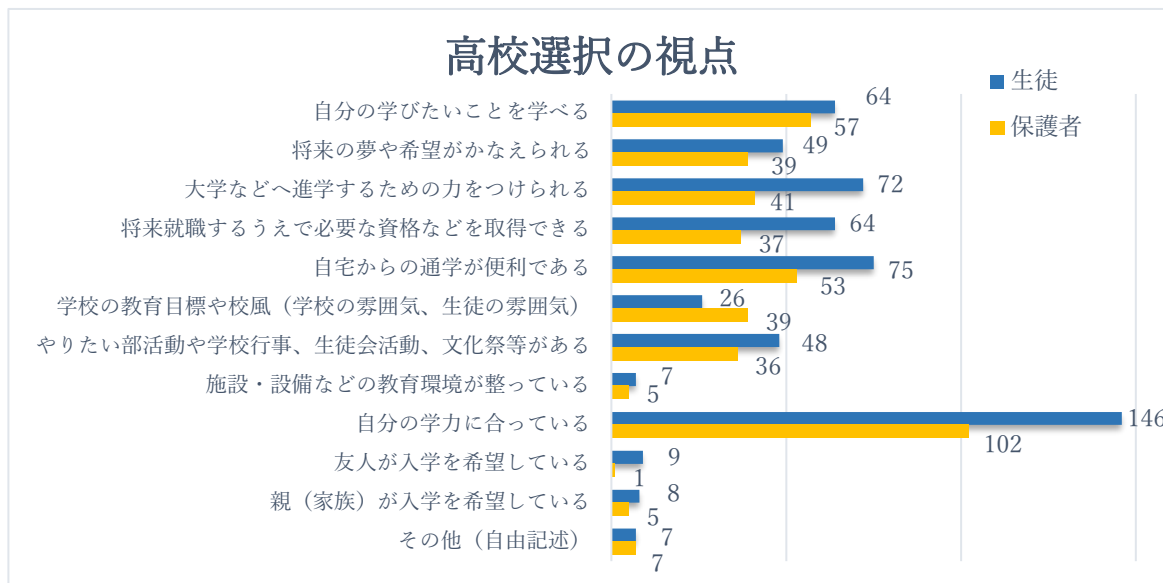
ウ その他の意見

子ども達の将来の夢や希望が叶えられるよう、教育環境の整備や高校・学科の増設についての配慮を求める。

(2) 高校生とその保護者が望む高校について

①高校選択の視点

生徒、保護者ともに「自分の学力に合っている」という回答が圧倒的に多かった。

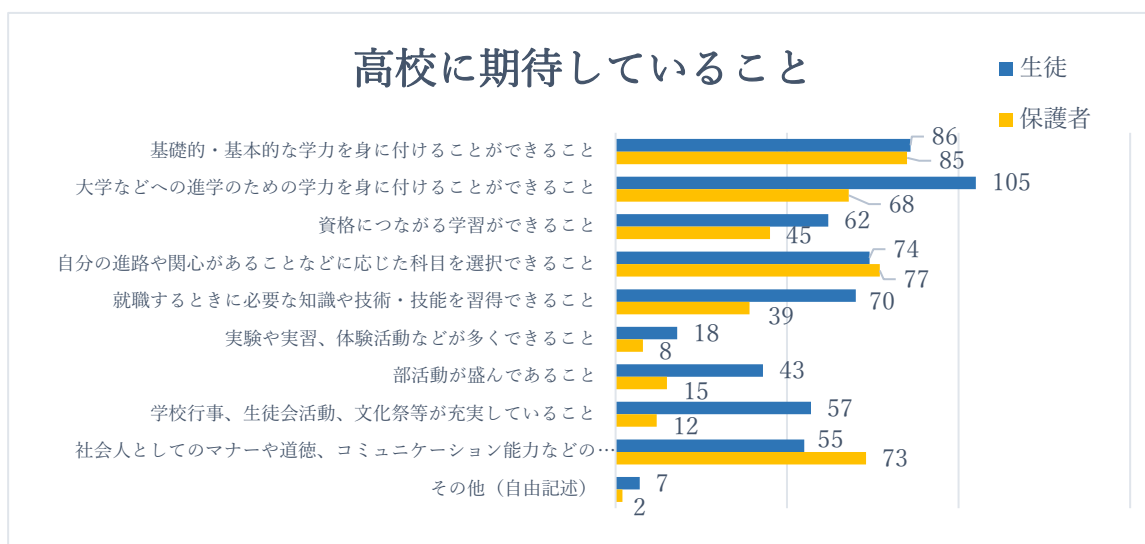


＜上田地域内の高校の生徒と保護者 【問1】＞

②高校に期待すること

「大学などへの進学のための学力を身に付けることができること」、「基礎的・基本的な学力を身に付けることができること」、「自分の進路や関心があることなどに応じた科目を選択できること」など、「学び」に関する回答が多かった。

なお、高校卒業後の進路については、4年制大学や専門学校等への進学希望者が多い。



＜上田地域内の高校の生徒と保護者【問2】＞

③その他

自由記述では、実際の高校生活にもとづく要望などが多く寄せられた。

ア 他地域からの流入や定員に関する意見

流入超過が続き、隣接する通学区での定員割れしている現状などを踏まえた改善策や、地元高校に通えるよう、私立高校も含めた上田地域全体での学級数の検討を求める。

イ 通学時間や交通手段の改善に関する意見

流入超過により他地域への通学を余儀なくされている生徒に対する交通手段の検討のほか、地元の高校に入学することで通学時間の短縮や交通費の軽減につながる仕組みづくりを望む。

ウ その他の意見

体験型学習やアクティブラーニングなど地域と連携した授業を取り入れ、かつ、通信制の導入や校舎改築など教育環境整備の検討も含めた高校教育改革の推進に期待する。

4 上田地域の高校の将来像（学びのあり方）について

「上田地域の高校の将来像を考える協議会」では、アンケート調査の集計結果を踏まえ、産業界や学校、行政関係者等との意見交換を実施した。「実施方針」に示された内容について、以下のとおり県教委へ意見・提案する。

(1) 今後、予想されている更なる人口減少への対応について

人口減少に対応した高校再編等の議論に当たっては、現状の高校配置を維持しつつ、子どもやその保護者の立場に立った改善につながるよう、小学区制や少人数学級の導入、学科改編、過去の議論も踏まえ、教育環境の整備に努めていただきたい。

(2) 流入超過となっている現状について

アンケート調査において上田地域への流入超過の状況に対し、高校受験の際には公立と私立を併願せざるを得ないなど、生徒や保護者から疑問や不安の声が多く挙がっている。一方でこの地域の高校に魅力（特色）がある表れでもあり、生徒同士が切磋琢磨する機会の増加につながるという意見も出された。上田地域を含む各地域の高校が魅力あるものとなり、県内で偏りなくバランスの取れた高校改革となることを望む。

併せて、通学にかかる時間の長さやバスの運行時間帯に対して、山間部からの通学しやすい交通手段、経済的な支援等、県と自治体で研究されたい。

(3) 高校の学びの充実について

どの高校でも、地域との連携を更に進めながら、「新たな学び」、「地域との協働による学び」に取り組み、子どもたちの生きる力を育むとともに、将来上田地区を支える人材が輩出されるよう願う。

ア 各学校の特色づくりの推進

中学校の生徒、保護者対象のアンケートでは、「自分の学びたいことを学べること」「大学などへ進学するための力をつけられること」「将来の夢や希望がかなえられること」等、学びの内容に関する回答が上位を占めている。生徒が主体的に高校を選択できるよう各高校の魅力や特色について、公立高校・私立高校を分け隔てなく、機会を捉えた発信により十分な周知・広報を行い、学力だけによる高校選択とならないよう各高校の仕組みや育てたい生徒像等を明確に打ち出してほしい。

また、多様な生徒のニーズを把握し、それぞれの学校の特色や仕組みを活かし、生徒の学習意欲を高める取組を期待したい。

イ 多様な生徒のニーズに応える環境整備の推進

発達障がいのある子や外国籍の子どもたち等へのきめ細やかな対応、授業改善や教師の意識改革の必要性などが協議会で議論された。どの子どもたちも、これからの社会を生き抜く力がつけられるようキャリア教育や社会に繋げる教育活動を積極的に取り入れるなど学校改革、環境整備を進めてほしい。

ウ 地域と連携した学びの推進

協議会の中で、上田高校の青木村でのSGHの取組や東御清翔高校の東御市と連携した取組が報告された。高校生が地域に出ていく学びは、地域の高校に対する理解を深める一方で、高校生の地域に対する理解の深化につながり、将来地域を支える力となり、地域活性化につながる。今後とも各高校の積極的な取組に期待するとともに、地域や企業、行政機関等は、高校生の活動に積極的な支援をしてほしい。

(4) 定時制・通信制教育のあり方について

定時制高校（多部制・単位制高校）は、全日制高校に比べ、柔軟な学びの仕組みを持ち、近年は多様な入学動機や学習歴を持つ生徒にとって重要な学びの場となっている。旧第5通学区では、「第1期長野県高等学校再編計画」において、地元の生徒をはじめ、広い地域から通学する様々なニーズを持った生徒の学びの期待に応えるため、東御清翔高校が全日制高校から多部制・単位制高校に転換している。この地域の定時制教育のあり方については、社会情勢の変化や地域からの要望等を酌み、中長期的な視点で検討していただきたい。

通信制は、「自分の好きな時間に学習ができる」など、生徒のニーズや生活リズムに対応する仕組みを持つため近年需要が高まる傾向にある。一方で卒業後の進路について「進路未決定者が4割程度」（「長野県学校基本調査」による）であることについて、キャリア教育や子どもたちへの学習支援体制の整備を求める意見が協議会において出された。

5 おわりに

「上田地域の高校の将来像を考える協議会」では、中学校・高校の生徒・保護者へのアンケート調査を実施することで、地域から見た高校に対する要望や切実な思いなどを集約した。協議会の場において、委員それぞれの立場からの意見交換を重ねた結果を、意見・提案としてまとめた。

県教委から示された「高校改革～夢に挑戦する学び～」実施方針の方向（ビジョン）には魅力と可能性も感じられることから、更なる推進を求めるとともに、上田地域のみならず、各地域からの意見・提案を尊重し、公立高校に加え、私立高校も含めた形で長野県全体の高校改革について検討を進めていただきたい。

また、集約した意見・提案については、県教委だけに止めることなく、関係部局など広く横断的な情報共有が図られることを期待する。

未来を担う子どもたちに、より良い環境を整備することは、大人の責任である。長野県、長野県教育委員会、地域が連携し、「学びの内容」や「学びの場」がさらに充実することを願う。

上田地域の高校の将来像を考える協議会設置要綱

(設置)

第1条 長野県教育委員会（以下「県教委」という。）が策定した「高校改革～夢に挑戦する学び～実施方針」に基づき、上田地域の将来を見据えた高校の学びのあり方と具体的な高校の配置について、県教委に対して意見・提案を行うことを目的として、上田地域の高校の将来像を考える協議会（以下「協議会」という。）を設置する。

(任務)

第2条 協議会は、上田地域の高校のあり方について協議し、県教委に対して、意見・提案を行うものとする。

(組織)

第3条 協議会は、委員24人以内で組織する。

2 委員は、次に掲げる者とする。

- (1) 市町村長
- (2) 市町村教育等又は教育委員長
- (3) 産業界の代表
- (4) その他地域の実情に応じた者

(任期)

第4条 協議会の委員の任期は、協議会の任務を終えるまでとする。ただし、委員が就任時の役職を離れたときは、後任者が残任期間を務めるものとする。

(会長及び副会長)

第5条 協議会に会長及び副会長を置き、委員が互選する。

2 会長は、会務を総理し、協議会を代表する。

3 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるとき又は会長が欠けたときには、その職務を代理する。

(会議)

第6条 協議会の会議は、会長が招集し、議長となる。

2 会長は、必要があると認めるときは、委員以外の者を会議に出席させ、意見を求めることができる。

3 会議は公開とする。ただし、会長の判断により一部非公開とすることができる。

(事務局)

第7条 協議会の事務局は、上田市（上田市教育委員会を含む。以下この条において同じ。）及び県教委の共同事務局とし、その役割分担は次の各号に掲げる区分に応じ、当該各号に定める事務とする。

- (1) 上田市 日程調整、会議の運営その他の協議会の運営に関する事務
- (2) 県教委 資料の収集・作成その他の協議会運営の支援に関する事務

(補則)

第8条 この要綱に定めるもののほか、協議会の運営に関して必要な事項は、会長が定める。

附 則

この要綱は、令和元年8月21日から施行する。

「上田地域の高校の将来像を考える地域の協議会」経過

協議会	開催日	議題
第1回	令和元年8月21日	<ul style="list-style-type: none"> ○会長・副会長の選出 ○「高校改革～夢に挑戦する学び～」概要について ○スケジュール等の確認 ほか
(11月中旬～12月上旬)		中学・高校の関係者（生徒・保護者）に向けたアンケートの実施
第2回	令和元年12月23日	<ul style="list-style-type: none"> ○各高校の現状等について ○アンケート集計結果について ○意見交換
第3回	令和2年2月13日	<ul style="list-style-type: none"> ○「上田地域の高校の将来像について」意見・提案（案）まとめ
4月以降		県教育委員会への意見・提案の提出

上田地域の高校の将来像を考える協議会 委員

(敬称略)

No.	氏名	区分	役職等	備考
1	◎ 土屋 陽一	市町村長	上田市長	
2	花岡 利夫	市町村長	東御市長	
3	羽田 健一郎	市町村長	長和町長	
4	北村 政夫	市町村長	青木村長	
5	峯村 秀則	市町村教育長	上田市教育委員会 教育長	
6	○ 小山 隆文	市町村教育長	東御市教育委員会 教育長	
7	辰野 登志男	市町村教育長	長和町教育委員会 教育長	
8	沓掛 英明	市町村教育長	青木村教育委員会 教育長	
9	○ 久保山 修	産業界	上田市商工会 会長	
10	清水 初太郎	産業界	東御市商工会 会長	
11	羽田 義久	産業界	長和町商工会 会長	
12	岩下 勇雄	産業界	青木村商工会 会長	
13	眞島 実	産業界	信州うえだ農業協同組合 代表理事組	
14	佐原 智行	地域の実情に応じた	5区高校校長会 会長	東御清翔高 校長
15	龍野 武利	地域の実情に応じた	上小中学校校長会 会長	上田第三中 校長
16	原澤 利明	地域の実情に応じた	上小中学校校長会 副会長	依田窪南部中 校
17	緑川 篤	地域の実情に応じた	上小教頭会 副会長 (校長会推)	上田第六中 教頭
18	神田 博幸	地域の実情に応じた	上小教頭会 副会長 (校長会推)	真田中 教頭
19	中原 良雄	地域の実情に応じた	上小高校PTA連合会 会長	丸子修学館高 会
20	神津 貴志	地域の実情に応じた	上小PTA連合会 会長	東部中 顧問
21	西村 貴樹	地域の実情に応じた	上小PTA連合会 副会長	依田窪南部中 会
22	藤武 敦子	地域の実情に応じた	上小PTA連合会 副会長	上田第六中 副会
23	中村 英三	地域の実情に応じた	公立大学法人長野大学 学長	
24	鈴木 英昭	地域の実情に応じた	長野県上田地域振興局 局長	

◎会長 ○副会長

事務局

No.	氏名	役職等	備考
1	柳原 渉	上田市政策企画部 部長	
2	中澤 勝仁	上田市教育委員会 教育次長	
3	鎌原 英司	上田市政策企画部政策企画課 課長	
4	石井 正俊	上田市教育委員会教育総務課 課長	
5	駒瀬 隆	長野県教育委員会高校教育課 教育主幹兼高校改革推進係長	
6	平林 哲郎	長野県教育委員会高校教育課 高校改革推進係主任指導主事	